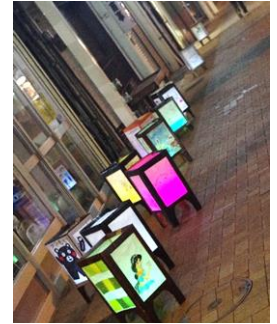


コラム風 生存と平和 その先への学び♡

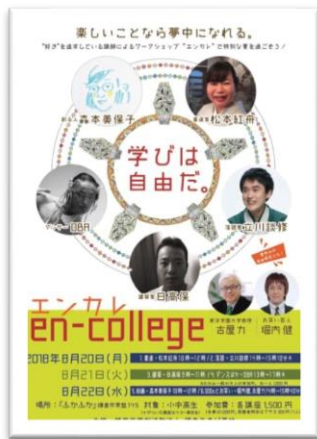
僕は教育・居場所そして相談-心理に関わってきた40年の経験から、“考えない子ども若者はいない”“希望や未来を描かない子ども若者はいない”と実感している。それは僕自身の思春期や青年期の経験でもある。僕を含めた大人/社会が希望ある未来を考えない現状維持の残念な生き方で、子ども若者の考えや言葉を遮断し発信させない結果、鬱屈(うっくつ)した子ども若者を生み出していると日々僕は考える。あえて言えば、大人/社会の支配操作、思い迷い悩む子ども若者を「子ども若者はこうあるべき」と封殺する大人/社会があると。



横須賀上町灯ろうまつり
By 川辺悟史さん撮影

未来をお金でしか描かない、人の豊かさを語れない大人/社会が目の前に広がっています。人を「生産性」で測る軟弱な大人女子、国民への「道義に沈黙」し武器や原発等企業セールスで外遊に励む一国の首相、そして武器等商品の購入を日本に迫る「友好国」の大統領、「言いたいことを言う」大人げない時代です。

生きること、全ての命をつなぐことが問われる時代です。生きづらさ-不登校・社会的ひきこもり・様々な障がい・あらゆる差別・病気・貧困-のその先を描き生存と平和を次代へつなぐ研究所であることをお約束します。ご支援下さい。そして一方…



子どもと若者の未来を描く8月

子ども若者と寄り添い豊かに歩む大人/地域は大きく多彩に広がっています。僕たち応援団もその一つ、更に鎌倉深沢にはフリースペースLargoがあります。去る4月建長寺での講演会成功を受け、地域の学びの場づくりへイベント(左)「学びは自由だ。en-college(インカレ)」を実施します。別添参照。

3地区応援団報告 本部会議7/1 七里が丘の語らい”

2013年、川辺順子さんと島根三枝子さんと僕3人で始まった応援団会議も6年、16人(新舂さんすぐ帰宅、お土産感謝)が集い盛会でした♡ 高比良秀一&和枝さん(FANCLのプレゼント感謝)のミニコンサート♪ 秀一さんのピアノを聴きながら深く考える2時間の本部会議でした。語らいのいくつかを紹介します。橋本さん：6月スタートの逗子ゆずり葉の会に参加された親御さん「自分の中で細胞が変化した。心療内科へ行かないで済んじゃった。落ち着いて考え直そう」と感想を。いろんな方がその場で話し考えるきっかけになったのかな?と。滝田：新しい時代がきている実感。学校へは行かなくていい、勉強から学びへ進

お親が出てきた。先生・学校の善意の「圧力」を超える時代になった…。

島根さん：親は集まると子どもの不登校を泣くことから始め、学校以外の道を皆で作ってきた。でも子どもは学校や勉強から外れることが怖い！が実像。

涌井さん：それをLargoが担えれば。学校の学びではなく多様性のある学びを学べる場所という。大人と触れ合って社会を学ぶという。

龍崎さん：不登校とひきこもり、最終的にどこに向かうのか？SNSは社会と広くつながりますが、さらに自分の主張を伝え相互に認めていくもう一つの場所が仕事なのかと。仕事を通し相互に理解し、決してお金だけではないというその感覚が凄く大事だと思う。仕事の壁をなくして身近なものにしていけたら。

※龍崎&涌井さん&滝田が参加した16カンファレンス(16startup)のソーシャルバージョンに横須賀で国内外の人が起業プレゼンテーション、熱い刺激受けました。

高島さん：今年度のたすき塾は小矢部町内会から衣笠中学校区7町内会に学習支援を広げ、子どもの口コミで従来の3倍21人が来ています。ボランティア

の学生さんに交通費ぐらいは出したいと小幡・加藤さん等の応援を受け教育委員会などと話し合いを進めていく予定です。

【高比良秀一&和枝ホームコンサート:新曲♪きっと繋がる♪】

高比良さん：息子秀一のつぶやき、考えていることは哲学的。こういう詩をどういう思いで書いたんだろうと考えさせられる。

彼の生き方と共に歩み自分の至らなさ
ごう慢さをいつも考えさせられます。

野津かおりさん：初めて参加して緊張したんですけど、やっぱりいろんな人と交流して勉強になるなと思いました。(母の和代さんもうなづいて)

古川さん：学校に行かなかった孫も4年になって「学校という所はいい所だ」と通うようになりました。

青木さん：娘を保育園に毎日送って車からなかなか降りないこともあります。子どもを育て「こうじゃなければいけない社会」から解き放たれると良いと思います。これまで営業成績を上げることに一生懸命でしたが(笑)。

新舛雅子さん：息子は地域の知人に就労を進められ「あの人が言うんだ」と悩んでいましたが、体調に影響しているとは思いません。(先に帰ったことを考え)

川辺悟史さん：(7月号写真掲載説明)自分が“いいな”と思った瞬間を撮っています。一瞬をどう表現するかを問いつつ。(文責：滝田衛)

逗子応援団会議 ひきこもり発信プロジェクト：新舛秀浩さん

今考えれば市民活動は必然だったのかもしれない。昨年度トピックスは3月4日UX会議代表理事林恭子氏を招き「ひきこもる心を理解する」講演会を主催したこと、市民活動逗子30S`プロジェクトへの参加だった。体調不良で逗子にこもりっきりになる結果、地元逗子で講演形式の市民活動「ひきこもり発信プロジェクト」立ち上げにつながった。僕の間では、不登校理解に比べ「ひきこも

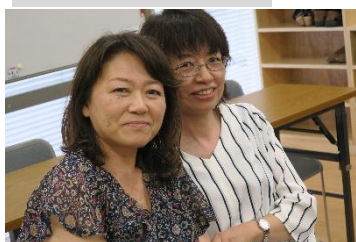




り」理解はまだまだ乏しく、親のすねをかじった甘えた存在との誤解が強い。そこで僕自身の体験から、ひきこもりは甘えではなく、とても辛い状態であることを明らかにしようと試みている。そして僕自身が未だ完全にひきこもりから脱しておらず、現在活動しているひきこもり経験者との視点の違いを発信したいと考えている。

第1回目(3月11日)は、僕が不登校になった経緯と大学受験に挑戦したものの精神疾患でひきこもり状態に突入した失意の日々を、そのなかから書く話することができるようになったきっかけを話した。2回目は僕の不登校、ひきこもり体験を紹介した。3回目は不登校・ひきこもりは生き方だが、不登校は半年休むと内申書に穴が空き先が見えなくなり、ひきこもりは経済的な問題がでてくることを紹介した。さらに4回目は僕がある親の会にいくまでの葛藤をお話した。次回はひきこもり支援、ひきこもった人に人気がない就労支援を僕の経験を交えて解説していく予定である。10月28日には『不登校ひきこもりが終わるとき』の著者丸山康彦氏を招き講演会を行う予定、よろしく願いいたします。

ゆずり葉の会 親も当事者 承認を : 橋本由美子さん



今年3月、上記紹介の林恭子さんの講演会(詳細は通信第9号)で、私は自身の経験から「親も当事者です」「親も支えてもらうことが大事なんです」と訴えました。その後、新井秀浩さんの『ひきこもり発信プロジェクト』を手伝いながら「親が支えられる、お互いに支え合う、そんな居場所を創りたい」と思うようになりました。応援団相談役の島根三枝子さん等のお力添えをいただき、6月に親・家族の互助会『ゆずり葉の会』は発足しました。

初回は現・元不登校ひきこもりのお子さんの親御さんと支えたいと考えてくださる方々12名が集い、それぞれの話に深く傾きあいながら語りあいました。参加者の皆さんから「会では私自身が『強い承認』をしていただいた感があり、帰り道は本当に勇気百倍の思いでした」「視野が広がりました。経験された方のお話はとても参考になります」「何でも話せる、聞けるこの場は貴重です」等の感想を頂きました。7月の集まりでは、「(子の不登校をきっかけに)親としての自分の関わり方や、生き方を見つめ直してはいますが、もっと早くにこのような会に出会いたかったです」と語られた親御さんもいらっしゃいました。今後も『ひきこもり発信P』と連携しながら、「なぜ勉強するの?」「なぜ働くの?」を皆で考えていける場になればと思います。御興味おありの方、どうぞ一度お運びください。会の名前は「新芽(子)の成長を見守るように前の葉(親)があとを譲る様子」がその名の由来である『ゆずり葉』から採りました。

横須賀応援団 最終的な特效薬は就労 : 涌井貴暁さん

「働く」は、ひきこもりにとっては最終的な手段で、初期のひきこもりには苦い薬となってしまうことがあります。「働く」はひきこもりの終盤で使う薬と私は考えています。「働く」は横須賀こども若者応援団の新しいテーマです。「働

く」＝「生きる」と私は考えています。「働く生きる」はひきこもりはもちろん子どもから大人へ移っていく一つの通過点（イベント）だと思えます。私が考え思っている「働く」とは賃金が発生するものに限りません。「就労、労働」どれにも「労」の字があります。この字は労（いた）わる



とも読みます。自分が心の底から労わられている労働に出会えたら、それは既に「働く生きる」を実践している状態だと思います。逆に、賃金が発生していても自分が労わられていると感じない労働は「働く生きる」とは言えないでしょう。最近ではブラックな仕事が、これは危険な労働です。その先には自殺や、過労死に繋がることもあるからです。では「労わり」という感情はいったい何者なのか？ 私は「他の人の為になっている」、自分以外の誰かへの行為感情ではないかと思えます。それを直に感じる事ができるものほど「労わり」を強く感じるのではないのでしょうか？ 子ども時代は自分中心に物事を考えます。労わりより満足を優先するものと思えます。しかし大人になるにつれ、世界は自分中心ではなく一人一人の人間の繋がりで動いていることに気がきます。すると自然に満足より労わりを優先するのが大人ではないのでしょうか？ これからの横須賀こども若者応援団は「働く」を追究してまいります。

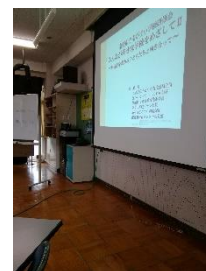
それぞれの風

○相談に来る小2女子が色紙でコマを折ってくれました。3分で完成しっかり回ります。手先の器用さ、集中力、作品のバランス等学びと表現が確か。恐るべし不登校🍀、その先の学びだ。○ホリケンに再会、下北沢本多劇場で第5回ホリケン演劇の会「ラヴ戦争」観劇。



臨場感アリアリのドタバタが凄い。TVっ子だった僕はシャボン玉ホリデーのクレージーキャッツ、8時だよ全員集合のドリフターズを超えたホリケン感が高い💖 出川哲朗さんとのタグが創る天才ホリケン、抱腹絶倒の2時間に感謝。

○“幸せな学校”を目指す秦野市立南が丘小学校大森智校長のお声がけで校内研修会へ。10年来のお付き合いは気の置けない関係、弾けた講演を👏陳謝。「子どもは凄いです」と満面の笑みで役職に拘らない大森巨匠はアップレ💖 ミャンマー教員、市県教委の経験を宝に学校づくり、中途退職のわが身を憂う(笑)



8月予定

○5日(日)午後2時～横須賀応援団マジスティック ○6日(月)広島・9日(木)長崎原爆被爆祈念日 ○12日(日)Pm1時半～おばたさおりとよこすかの未来をつくる会 ○15日(水)敗戦記念日 ○18(土)19(日)心理研修会東京 ○20(月)～22(水)日 Largo 学びは自由だエンカ★22日 PM ホリケンとSDGs/鎌倉応援団 ○25(土)26(日)心理研修会名古屋 ○26日(日)午後1時～逗子応援団・ひきこもり発信プロジェクト・ゆずり葉の会 ◎鎌倉市相談センター3(水),7(火),9(木),14(火),17(金),20(月),24(金),28(火),31(金) ◎相談13(月),16(木),29(水)

【発行編集:滝田衛】携帯:09072124055 メール:qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp

●研究所ホームページ: <http://shichirigaoka-lab.jimdo.com/>

●応援団フェイスブック: <https://www.facebook.com/kodomowakamono.ouendan/>